

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200318		
法人名	株式会社 日本ライフデザイン		
事業所名	花と幸せ家族		
所在地	千葉県千葉市花見川区千種町154-5		
自己評価作成日	令和3年2月13日	評価結果市町村受理日	令和3年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	令和3年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内の庭には大きな梅の木と柿の木があり、収穫の際には梅酒を作ったり、柿は食事やおやつなどに提供するなど成長から収穫まで楽しむことができます。
また、野菜作りをしたり、お花を植えたりと土いじりができることです。とても静かで落ち着いた雰囲気の施設になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千葉市郊外、畑や緑も多く里山が残る閑静な住宅街に、グループホーム専用に建てられた木造2階建てのホームです。近くに千葉北インターチェンジや病院、ショッピングセンターなどがあり交通に便利な環境です。建物内部は自然光が入り明るく掃除が行き届き清潔に保たれており、広い庭には、葉ボタンやパンジーなど季節の花が植えられ、梅や柿の木々も繁り、利用者は四季を感じながらゆったりと過ごしています。
運営法人の基本理念や行動指針などを掲げ、全職員は利用者個々に寄り添い、家庭的な団欒の中、利用者本位のサービスを提供しています。医療面では、訪問診療医の24時間オンコールや訪問看護師、職員の連携により、今年は2名の看取りを行い「終の棲家」として利用者・家族にホームに対する信頼と安心感があります。外部評価時に実施した家族アンケートでも、「家族の話をよく聞いてくれる」と感謝の声もあります。また法人としてのアンケートも年1回実施し、ホームの運営に家族の声を反映させるように努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつでも確認ができるように見えるところに掲示してあります。	運営法人とホームの理念「温かい心で最高のサービスを提供すること」を事務所や職員の更衣室などに掲げ、職員会議などで共有していますが、地域密着型サービスの意義をふまえたものとはなっていません。	職員で話し合い、地域密着型サービスの意義をふまえた、簡単に明瞭なホーム独自の理念を掲げることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入をしています。町内会の行事やイベントなどお知らせがあった時は出来る限り参加し交流をしています。非常用の水を寄付して頂きました。	町内会の行事や夏祭りなどに参加し、散歩の途中に地域の住民とセラピー犬を通して触れ合うなど交流を積極的に行っています。また各種ボランティアを受け入れていましたが、コロナ禍の現在では中止状態です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はドクトレーナーの新卒職員が入職され、犬と散歩を交えて地域の方に認知症の理解及び支援を頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナの影響があり、開催が出来ていません。	会議は従来、地域包括支援センター、民生委員、家族、利用者、職員等が参加し、参加者の貴重な意見を運営に反映していましたが、コロナ禍の今年は、書面の報告など年2回の開催にとどまりました。	千葉県では、年4回以上の会議の開催が望ましいとされています。書面開催を含め、ホームの年間行事予定の中に組み込み、実施されることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	オムツ給付を受けに月に一度は役所に行っています。また、事故報告などの際、アドバイスを頂いたりしています。	ホーム長は、市や区の担当課とは常に報告や相談を密に行っています。運営推進会議には、地域包括支援センターの出席があり、情報やアドバイスを貰うなど良好な協力関係が継続しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては契約時に説明をし了解を頂いています。また書面でも残していません。社内研修等を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会は、ホーム長が委員長を務め年4回開催し職員への周知徹底を図り、内容を運営推進会議で報告しています。ユニット間は自由で、玄関は施錠していますが、職員は、拘束感を感じさせないように見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待防止について行っています。職員がその都度、再確認、周知するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方とは連絡を取り、施設での様子、時にはアドバイス等を頂きながら連携をとり協力体制をとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約をしますが契約書、重要説明事項、その他、一つ一つ説明し納得を頂きながらサイン、押印を頂いています。その都度、疑問や不安がないか確認をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを年1回行っています。それを元に施設で改善や解決策や対策をおこなっています。	利用者については日頃の対応で、家族については、来訪時(現在は窓越しでの面会)電話、運営推進会議、ホームの行事参加時などで、意見・要望を聴き運営に反映させています。外部評価時に実施する家族アンケートの他、運営法人独自のお客様アンケートを実施して参考にしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設での会議など発言しやすい雰囲気を作っています。職員一人一人の意見が言えることでモチベーションも維持できています。	ホーム長は、日頃の対応や職員会議、年2回の個人面談などで職員からの意見・要望・提案を吸い上げ、運営に反映させています。また職員との信頼関係が出来ており普段から何でも言える環境があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内にキャリア段位制度があり、各力量によって研修などに参加し教育をおこなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画予定があります。また法人内の研修に参加する機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での研修、レク委員、防災委員、部会などがあり勉強会などに参加し交流する機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安な事が何かをいち早く察することができる。また、お話の中から興味・関心な事を見つけコミュニケーションが取れるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな事が困っているのか、何が不安なのかを聞きだし、お話の中で不安なことを取り除く。安心して頂けるように信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を把握し、まず何が優先かを考え家族、本人と相談しサービスの利用を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯たため、食器拭きなど一緒に出来ることをおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望も理解しご協力のもと一緒に支援できるように関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会は控えていただいておりますが、電話で近況報告をしたりライン電話での会話をしています。	コロナ禍で面会は難しいため窓越しの面会や、電話連絡にとどまっています。今後はホームページの充実などでホームの様子を発信していく予定です。	コロナ禍という特殊な状況にあって職員の大変さを気遣う家族の思いもあります。ホームの様子や利用者の近況を毎月の請求書とともに定期的に伝えるなどの工夫が期待されます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクなども出来ること出来ない事、得意なこと不得意な事を見極める。会話でも職員が間に入り、話が出来やすい雰囲気作りをし孤立しないように環境を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何か困ったことがあったら、いつでも気軽に相談できるように声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思や意向を会話の中で聞き取りをする。また、会社の理念に沿ったケアをおこなう。	落ち着かない様子の利用者にはトイレ誘導をしたり、言葉かけを工夫しています。洗濯たたみやモップかけなどの手伝いをお願いすることで気持ちが落ち着く事もあり、利用者の表情やしぐさから思いに沿った支援ができるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況や入所までの状況をご本人やご家族などから聞きとり、把握できるように個別表などに記載して把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方、有する能力が違うため、その人に合わせた過ごし方を把握し日々、記録をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	健康状態や日々の変化について介護職員、計画作成者、本人、ご家族、管理者と会議を行い状況の把握をし介護計画を作成している	入居前に本人・家族・ケアマネージャー・医療機関などから必要な情報を得て暫定の介護計画を作成しています。入居後の様子を見て1か月後に本計画を作ります。3か月ごとにモニタリングを行い、目標の終了時期・変化時・更新時に計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入と申し送り時に口頭及び連絡ノートに記載をし情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況や状態、ご家族の状況の把握をしご家族の協力のもと取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	犬との散歩を通して近隣の方にも理解してもらう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の定期訪問にて診察を受けることができます。他の医療機関の受診が必要な場合は先生より指示を頂き専門医の医療機関の受診をしています。	本人・家族は入居時にかかりつけ医の選択をしています。現在は全員が月2回の訪問診療と週1回の訪問看護により健康を管理しています。訪問診療医は24時間オンコールで、緊急時には迅速に対応しており医療連携体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護が定期訪問します。入居者様の健康状態などを気になることを相談し適切にアドバイスを頂いてきます。また、必要に応じ訪問医にも報告をして頂き、訪問医からも指示があります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側からもどの段階まで回復したら、施設に戻れるのか、退院できるのか相談があります。退院前にはカンファレンスにも参加して状態の確認をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期、看取りについてご家族やご本人に確認をしています。また、訪問医とも連携を取り支援をおこなっています。	入居時に重度化した場合のホームの方針を「重度化及び看取り介護についての同意書」を示して説明し同意を得ています。重度化した場合には医師を交えて話し合いを行い、終末期に向けての体制を整えます。今年度は2名の看取りを行いました。利用者の高齢化に伴い看取りについての職員研修を行う予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はマニュアルに沿っておこなっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水災害対策として備蓄品の確保や連絡の取り方などグループ全体で会議などで確認をしています。社内でも防災委員がいます。	年2回の自主訓練(通報・避難)を実施しています。コロナ禍消防署の立ち会いはありません。スプリンクラー、通報装置等必要な防火装備は整い、連絡網や対応マニュアルも完備しています。5日分の備蓄を準備しチェックリストは、防災委員が管理しています。	高齢者も多いので、消防署立ち会いと地域の住民と連携した合同の災害避難訓練の実施、および、備蓄について今後も内容、数量の見直しを続けることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた声掛けをしています。排泄時にも声掛けに配慮しています。個人記録や個人ファイルなども鍵のかかる所に保管し管理しています。	「利用者が自分で決める」ということを大切に、過不足のない支援を心がけています。利用者の羞恥心や尊厳を守る支援について、職員には自分の身に置き換えて考えるよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時も、「お風呂どうする？」入るか入らないかなど自己決定がしやすいような声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に出来る限り添えるようにし、ご本人のペースに合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご本人が選んでいます。男性の方は電動髭剃りで髭剃りをおこなったり女性の方は髪をヘアブラシで整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状況に応じ食事の形態を変更しています。テーブル拭きや食器拭き、片付けなどを出発点を行っています。	食事の盛り付けやテーブル拭きなどできる事を見つけて支援しています。利用者のリクエストに応じてピザや寿司の出前を頼んで喜ばれています。お好み焼きやホットケーキなどのおやつ作りに利用者も参加し、食事が楽しくなる支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託業者を頼んでいます。バランスの取れた食事、状態により形状も変更できます。こまめな水分補給をしています。食事量や水分摂取量は記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時、職員が見守り、介助をしています。義歯の装着や保管時の洗浄剤、磨き残しがないか確認をしています。抵抗がある場合はうがいを行ってもらいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表でチェックしています。その人の排泄のタイミングに近い時間にトイレ誘導をしています。トイレで排泄する事が1日数回あります。	個々の排泄のタイミングを把握し、トイレ誘導や声かけをしています。現在オムツを使用する利用者はおらず、90歳代の人が布パンツでいるということからも排泄の自立に力を入れていることがわかります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをしています。排便がない日が続くときは訪問医や訪問看護師、薬剤師に相談し指導を受けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日1回のペースで入浴は行っています。今、入りたくないという時は時間をずらして、声掛けを入浴をしています。	週に2～3回のペースで入浴しています。拒否のある人には「入浴」という言葉を使わず「薬を塗りましょう」などと声かけを工夫しています。入浴中の職員との時間は会話も弾み大切なコミュニケーションの場になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお席で過ごされています。ソファーに移動したり、お部屋に行って短時間休息したりしています。その際、温度、室温などを調整し快適に過ごせるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を常に確認できるようにしてあります。変化があった時は、訪問医や薬剤師に相談し、連携をとり支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクも塗り絵、折り紙、ハサミで切る作業が好きな人とそれぞれなので、その人に合わせた物を提供し楽しみや役割を持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族のご希望もあり外出されることがあります。行事での外出、買い物、一緒に役所まで出掛けたり、ドライブをして少しでも外の空気に触れられるようにしています。	現在は買い物や役所などへの外出はできませんが、ホームで飼育している犬と近隣を散歩しています。外出を拒否する人には、庭のプランターに花を植えたり、水をやるなどの役割を見つけて外気に触れる機会を作っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設の方では預かっておりません。買い物したときは、施設の方で立替をしています。ご家族にも説明し理解を得ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や兄弟など電話があった時は電話に出て頂きお話をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬は各居室とリビングに加湿器を設置し夏場はエアコンで温度管理をしています。台所からは調理の様子や匂いを感じることができ、窓からは大きな柿と梅の木がみえ季節を感じることができます。	リビング兼食堂は、自然光が入り明るく温もりのある環境で、観葉植物やソファなどが置かれています。利用者は、コロナ禍ですが、いつもと変わらず、月1回は季節にちなんだ行事や折り紙、塗り絵などしたり、セラピー犬などに癒されながら居心地よくゆったり過ごしています。庭や玄関のプランターには、葉牡丹、ビオラ、パンジーなどが植えられ季節感があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とお話がしやすいようにお席の配置を考えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはクローゼット、ベッド、カーテン、空調が備えてあります。思い出の物や今まで使っていた物などをお持ち頂き居心地よく過ごせるようにしています	広い居室は、掃除が行き届き清潔で綺麗になっています。大型のクローゼットがあるので整理整頓が良く、利用者は、テレビ、家具、カレンダー、家族の写真など使い慣れた馴染みの物を持ち込み居心地よく過ごしています。名札の下に、笑顔の写真が飾られている居室もあり、職員の気配りが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をつけ、フロアーの椅子には名前をつけ、トイレも分かるように表示しています。		